

付

特許・実用新案登録一覽

—昭和53年度—

<日本特許> 119件

No	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
1	47-120599 (47.12.4)	52-21639 (52.6.11)	893331 (53.1.18)	繊維の難燃処理法 (藤井 一, 服部 達夫)	<p>天然繊維または/および合成繊維をトリメチロールシクロトリメチレントリアミンに炭素数1~3のジアルキルホスファイトまたはジ(ハロゲン)アルキルホスファイトを縮合させて得られる一般式</p> $ \begin{array}{c} \text{HOH}_2\text{C}-\text{N} \\ \diagdown \quad \diagup \\ \text{CH}_2 \quad \quad \text{CH}_2 \\ \quad \quad \\ \text{N} \quad \quad \text{N}-\text{CH}_2-\text{P}(\text{OR})_2 \\ \diagup \quad \diagdown \\ \text{X} \quad \quad \text{CH}_2 \end{array} $ <p>(但し、Xは CH₂OH または CH₂-P(OR)₂, Rは炭素数1~3のアルキル基若しくはハロゲンアルキル基である)</p> <p>で示される化合物を含有する溶液で処理することを特徴とする繊維の難燃処理法。</p>
2	48-21208 (48.2.23)	52-22397 (52.6.17)	893332 (53.1.18)	クロロプレン共重合体の製法 (大鶴 雅昭, 宮川 俊男)	アルキルアルミニウムセスキハライド、三塩化バナジルおよび水からなる三成分系触媒を用いて、クロロプレンまたはこれと他の共役ジエンとの混合物と共役極性ビニル化合物の少なくとも一種とを共重合させることを特徴とするゴム状弾性体の製法。
3	49-72369 (49.6.26)	52-22797 (52.6.20)	893333 (53.1.18)	スチレンオリゴマーのアルキル化方法 (小坂勇次郎, 井村 信一, 齊藤 光高, 佐藤 真一)	フリーデル・クラフツ触媒の存在下、オレフィンを低分子量スチレン重合体と反応させることによるエチレン共重合体の接着性を向上させる重合体の製造方法。
4	49-101381 (49.9.5)	52-21492 (52.6.10)	893334 (53.1.18)	シアノ基を有する共役ジエンの製造方法 (野中 悠次, 木原 啓一, 弘中 敏夫, 小田 康弘)	<p>一般式</p> $ \begin{array}{c} \text{CN} \quad \text{R}_1 \\ \quad \\ \text{CH}_2=\text{C}-\text{CH}-\text{CH}-\text{R}_2 \\ \\ \text{OH} \end{array} $ <p>で表わされる2-シアノ-3-ヒドロキシ-1-オレフィン化合物を担体に担持させた塩基性物質の存在下に液相で脱水化することによって、一般式</p> $ \begin{array}{c} \text{CN} \quad \text{R}_1 \\ \quad \\ \text{CH}_2=\text{C}-\text{CH}=\text{C}-\text{R}_2 \end{array} $ <p>で表わされるシアノ基を有する共役ジエン (ただし、上記の一般式中 R₁, R₂ は水素原子, アルキル基またはフェニル基を示す。)を製造することを特徴とするシアノ基を有する共役ジエンの製造方法。</p>

No	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
5	50-29508 (50. 3.13)	52-23660 (52. 6.25)	893335 (53. 1.18)	エチレン系グラフト共 重合体エマルジョンの 製造方法	エチレン-酢酸ビニル共重合体の存在下, α β 不飽和カルボン酸および/またはその無水物と 一般式 $\text{CH}_2=\text{C} \begin{array}{l} \text{X} \\ \text{Y} \end{array}$ (ただしX, Yは異種または同種で, 水素, 塩 素, アルキル基, アセトキシ基, カルボン酸エ ステル基からなる群から選ばれる)を有する少 なくとも一種のビニリデン単量体を共重合す ることによって得られるカルボキシル化エチレン 共重合体中のカルボン酸の50化学当量%以上を 中和することを特徴とする自己乳化性エチレン 系グラフト共重合体エマルジョンの製造方法。
6	46-59628 (46. 8. 9)	52-25409 (52. 7. 7)	893857 (53. 1.18)	カルボキシル化重合体 から成る粘着剤組成物	エチレン-酢酸ビニル共重合体の存在下無水マ レイン酸とアルキルアクリレートとを共重合させ て得られる重合体を30~70重量%と粘着性付 与, 粘度低下付与の目的で配合せられる変性剤 70~30重量%より成る粘着剤組成物。
7	48-93066 (48. 8.20)	52-22664 (52. 6.18)	895753 (53. 2.14)	ポリオレフィン射出架 橋発泡用金型	ポリオレフィン又はポリオレフィン共重合樹脂 に架橋剤, 発泡剤, 離型剤等を加えてなる配合 物を射出成形機にて加熱した金型に射出し, 架 橋発泡体を得る成形法に使用される金型にし て, キャビティ, コアがおさまる程度の部分 を中金型とし該中金型は熱伝導性のよい金属材 質で構成して外金型に着脱可能に取付けられ, 前記中金型と外金型の界面には熱板, 断熱板が 挿入可能な空間を設けたことを特徴とするポリ オレフィン射出架橋発泡用金型。
8	42-69271 (42.10.27)	51-33944 (51. 9.22)	897273 (53. 2.14)	ポリオレフィンの発泡 体製造法	ポリオレフィンに架橋剤と発泡剤を混入し, つ いで該材料をホッパを通して加熱筒に送り, 流 動状態にならしめた後加熱された金型内に射出 充填し, 該金型キャビティ内でポリオレフィン を架橋させると共に発泡セルを構成させ, 該金 型開放と同時に発泡セルを拡大させて製品とす る方法。
9	42-71466 (42.11. 8)	52-12209 (52. 4. 5)	897274 (53. 2.14)	塗料用樹脂組成物	セルローズ誘導体と炭素数10-25で塩素含有量 が20~70重量%の直鎖状炭化水素の塩素化物お よび溶剤を含む塗料用樹脂組成物。
10	45-94359 (45.10.28)	52-28797 (52. 7.28)	898605 (53. 2. 5)	ハロゲンを含む1-アジ ジニルリン酸エステ ル類の製造方法	炭素数3~4のハロゲン含有アルコール類の1 種以上と, エチレンイミンあるいは2-メチルア ジリジンとオキソ塩化リンを反応せしめること を特徴とするハロゲンを含む1-アジジニル リン酸エステル類の製造方法。
11	46-37813 (46. 6. 2)	52-28776 (52. 7.28)	898606 (53. 2.25)	ジアセトキシブテンの 製造法	ブタジエン, 酢酸および酸素を含む混合ガスを パラジウムとアンチモンおよびビスマスの少く とも一種およびアルカリまたはアルカリ土類金 属の少くとも一種からなる触媒を使用して, 気 相流通反応させて, ジアセトキシブテンを製造 する方法。

№	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要 旨
12	46-84699 (46.10.27)	52-29294 (52. 8. 1)	898607 (53. 2.25)	不飽和エステルの製造法 (齊藤 寿広, 高野 操, 森山 茂, 村山 浩)	アルミナの亜鉛スピネルを担体として、これに(1)パラジウムならびに金及びウラン、又は(2)パラジウム及びウランを担持させた触媒を用いて、低級不飽和炭化水素と、酸素又は酸素含有ガスと、低級脂肪酸とを気相で反応させることを特徴とする不飽和エステルの製造法。
13	47-19644 (47. 2.28)	52-29305 (52. 8. 1)	898608 (53. 2.25)	2-ニトロシクロアルカノンの製造方法 (山田 静夫, 佐々木博朗, 田中 哲夫)	シクロアルケン、二酸化窒素と酸素から2-ニトロシクロアルカノンを製造する方法において、N-アルキル置換アミド系化合物(但くジメチルホルムアミドは除く)または該化合物と芳香族炭化水素、ハロゲン置換炭化水素、エーテル類の少なくとも1種の存在下に反応させることを特徴とする2-ニトロシクロアルカノンの製造方法。
14	47-41747 (47. 4.27)	52-29718 (52. 8. 3)	898609 (53. 2.25)	アクリル酸を製造する触媒 (小野 勲, 加藤 喬雄, 長浜 武敏)	アクロレインを酸素あるいは空気で気相酸化して、アクリル酸を製造する際に使用するものにして、モリブデン酸塩とバナジン酸塩がそれぞれに含まれる MoO_3 と V_2O_5 を基準にして $\text{MoO}_3/\text{V}_2\text{O}_5$ 重量比で2~8であり、これに硫酸鉄または(および)硫酸ビスマスが前記 MoO_3 と V_2O_5 の総量を基準にしてその3重量%以下の比率で配合され、300~400°C の温度で焼成し調製された触媒。
15	42-14330 (42. 3. 7)	52-8280 (52. 3. 8)	898910 (53. 2.25)	塩化アルカリ用極黒鉛の部分不透過処理方法 (矢守 勝二, 村田 静夫)	充填材として使用される黒鉛材料の通気性に適合する3000~9000センチ・ストークス/25°Cの桐油の部分重合油又は部分重合桐油を主体とした混合油を使用し、これを陽極黒鉛のリードイン部分に透過充填後、200~250°Cにて20~30分間熱処理を行うことを特徴とする塩化アルカリ用陽極黒鉛の部分不透過処理方法。
16	47-64935 (47. 6.30)	52-18684 (52. 5.24)	900497 (53. 3.15)	塩素化炭化水素の回収法 (柿原 佑吉, 田中 武司, 依田 勝男, 山根 豊)	塩化第二鉄の存在下で炭化水素と塩素とを反応させてえられた粗塩素化炭化水素を水で洗浄し、えられた廃水を300 mmHg以下の圧力で蒸留することを特徴とする塩素化炭化水素の回収法。
17	47-114285 (47.11.16)	52-30993 (52. 8.11)	902542 (53. 3.30)	塩化ビニルグラフト共重合体の製造方法 (小坂勇次郎, 植村 勝, 藤田 宜宏, 鈴木 祐二)	エチレン-酢酸ビニル共重合体の存在下に1塩化ビニルと2マレイン酸あるいはその誘導体の少くとも1種と3第三単量体成分としてオレフィン、アクリル酸エステル、メタクリル酸エステル、マレイン酸エステルおよび脂肪酸のビニルエステルからなる単量体群から選ばれた少くとも1種類の単量体とを共重合させることによって透明性と耐衝撃性にすぐれた塩化ビニルグラフト共重合体を製造するにあたり該エチレン-酢酸ビニル共重合体としてメルトインデックスが0.5~200g/10分で、酢酸ビニルを10~50重量%含むものを用い、しかも該塩化ビニルグラフト共重合体の組成が該エチレン-酢酸ビニル共重合体2~20重量%、塩化ビニル70~95重量%、マレイン酸誘導体0.2~10重量%および第三単量体成分0.5~30重量%からなることを特徴とする塩化ビニルグラフト共重合体の製造方法。

No	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
18	47-114287 (47.11.16)	52-32394 (52. 8.20)	902543 (53. 3.30)	塩化ビニルグラフト共 重合体の製法	エチレン-酢酸ビニル共重合体の存在下に(1)塩化ビニルと(2)第二単量体成分および(3)第三単量体成分とを共重合させることによって透明性にすぐれしかも内部可塑化された塩化ビニルグラフト共重合体を製造するにあたり、該エチレン-酢酸ビニル共重合体として、メルトインデックスが0.5~200g/10分で酢酸ビニルを20~70重量%含むものを用い、第二単量体成分としてアクリル酸、メタクリル酸、イタコン酸、無水マレイン酸、マレイン酸およびマレイン酸のアルキルエステルの内少くとも一種の単量体を第三単量体成分としてオレフィン、アクリル酸エステル、メタクリル酸エステル、マレイン酸エステル、アルキルビニルエーテルおよび脂肪酸のビニルエステルの内少くとも一種の単量体をそれぞれ選んで共重合を行い、しかも該グラフト共重合体の組成が該エチレン-酢酸ビニル共重合体40~80重量%、塩化ビニル20~60重量%、第二単量体成分0.2~10重量%および第三単量体成分0.5~30重量%からなることを特徴とする塩化ビニルグラフト共重合体の製法。
19	48-80874 (48. 7.23)	52-31236 (52. 8.13)	902544 (53. 3.30)	耐衝撃性スチレン系樹 脂の製法	エチレン-酢酸ビニル共重合体の存在下に、(1)塩化ビニルと(2)オレフィン、アクリル酸エステル、メタクリル酸エステル、飽和脂肪酸のビニルエステル、マレイン酸エステルおよびフマル酸エステルからなる単量体群の少なくとも一種の単量体とを共重合させ、ついで得られた該重合生成物の存在下で更に(3)アクリルニトリルと(4)スチレンとを共重合させることを特徴とする耐衝撃性スチレン系樹脂の製法。
20	48-141864 (48.12.20)	52-32768 (52. 8.24)	902545 (53. 3.30)	水溶性感圧接着剤組成 物	ポリエチレンイミン100重量部とでんぶん系水溶性高分子化合物10~100重量部を含む水溶液からなる水溶性感圧接着剤組成物。
21	48-141865 (48.12.20)	52-32769 (52. 8.24)	902546 (53. 3.30)	水溶性の感圧接着剤組 成物	ポリエチレンイミン100重量部、でんぶん系水溶性高分子10~100重量部、ポリアクリル酸1~30重量部を含む水溶液よりなる水溶性感圧接着剤組成物。
22	49-16816 (49. 2.13)	52-31233 (52. 8.13)	902547 (53. 3.30)	ガラス被覆用樹脂の製 造方法	酢酸ビニル5~40重量%を含むエチレン-酢酸ビニル共重合体をけん化して得られる、けん化度が20~95%の部分けん化エチレン-酢酸ビニル共重合体80~99重量部の存在下、 α - β -不飽和カルボン酸あるいはその無水物1~20重量部を重合するにあたり、炭素数5~8のパラフィン系炭化水素98~60重量%を該部分けん化エチレン-酢酸ビニル共重合体を溶解する芳香族炭化水素2~40重量%とからなる混合溶媒中に、該部分けん化エチレン-酢酸ビニル共重合体を粉末のまま懸濁し、ラジカル開始剤を該単量体に対し0.01~1.0重量%用い20~100°Cの温度で

№	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
					グラフト重合することを特徴とする、ガラス容器への粉末被覆材料としてすぐれた重合体の製造方法。
23	49-45133 (49. 4.23)	52-32791 (52. 8.24)	902548 (53. 3.30)	熱可塑性樹脂の製造方法 (小坂勇次郎, 井村 信一, 斉藤 光高, 小岩 成次)	エチレン-酢酸ビニル共重合体またはグラフト活性化処理したエチレン-酢酸ビニル共重合体5~40重量部を, メタクリル酸メチル単量体100重量部またはこれと共重合可能な単量体0~30重量部に溶解した混合溶液を重合するに際し, 少なくとも相転移が生ずるまで塊状重合で予備重合し, しかる後懸濁重合系に移し重合を完結させる方法において, エチレン-酢酸ビニル共重合体に対し貧溶媒で, かつメタクリル酸重合体に対して良溶媒であるような溶剤を, 該メタクリル酸メチル単量体100重量部に対して1~100重量部を加えて重合することを特徴とする耐衝撃性, 透明性, 成形加工性に優れた熱可塑性樹脂の製造方法。
24	46-15829 (46. 3.22)	52-33091 (52. 8.26)	904114 (53. 3.20)	1, 4-ジアセトキシ-2-ブテンの製造法 (小野 勲, 古賀 俊国, 岡田 宏亮, 柳原 忠久, 西村 滋哲)	ブタジエンのオキシアセトキシル化生成物から, 3, 4-ジオール-1-ブテンのモノ酢酸エステルおよび水を除去し, 3, 4-ジアセトキシ-1-ブテンを含む該除去処理取得物を硫酸と接触させることを特徴とする1, 4-ジアセトキシ-2-ブテンの製造法。
25	49-115227 (49.10. 8)	52-33087 (52. 8.26)	904115 (53. 3.20)	2-クロルブタジエン-1, 3の製法 (末永 忠行)	水酸化カルシウムと硫酸ナトリウムを共用することによって, 3, 4-ジクロルブテン-1の脱塩酸反応をおこなうことを特徴とする2-クロルブタジエン-1, 3の製法。
26	49-127057 (49.11. 6)	52-33087 (52. 8.26)	904116 (53. 3.20)	クロロプレンの製造法 (小坂勇次郎, 末永 忠行)	3, 4-ジクロルブテン-1 からクロロブレンモノマーを製造する方法において, エチレンアミン類の存在下に行うことを特徴とするクロロブレンモノマーの製造法。
27	50-53258 (50. 5. 6)	52-32995 (52. 8.25)	904117 (53. 3.30)	白度の高いエチレン-酢酸ビニル共重合体ケン化物の製法 (小坂勇次郎, 井村 信一, 斉藤 光高, 佐藤 真一)	酢酸ビニル含量10~50重量%のエチレン-酢酸ビニル共重合体を低級アルコール媒体中で, アルカリケン化するに際し, アンモニアおよび/またはアンモニア誘導体を添加することを特徴とする白度の高いエチレン-酢酸ビニル共重合体ケン化物の製法。
28	47-100304 (47.10. 7)	52-35070 (52. 9. 7)	906220 (53. 4.18)	接着性にすぐれた重合体の製造方法 (小坂勇次郎, 植村 勝, 藤木 時男, 木村 正歳, 斉藤 光高)	エチレン-酢酸ビニル共重合体およびポリオレフィンをも包含する炭化水素またはその塩素化物の存在下, アルキルアクリレートと無水マレイン酸および/または α - β の位置がエチレン的に不飽和なカルボン酸を共重合することからなる接着性にすぐれた重合体の製造方法。
29	47-106679 (47.10.26)	51-43511 (51.11.22)	906221 (53. 4.18)	熱融着層を有するラミネートの製造方法 (藤木 時男, 柴田 泰二, 植村 勝, 山木 鉄也, 藤井 秀雄, 小坂勇次郎)	(1)酢酸ビニル含量15~40重量%のエチレン-酢酸ビニル共重合体97~70重量%, (2)環球法軟化点60~130°Cの低分子量スチレン系重合体あるいは共重合体から選ばれる1種または2種以上の改質剤3~30重量%からなる組成物にさらに脂肪酸アミド, ポリエチレングリコール, 水添ひまし油およびこれらの混合物から選ばれる添加剤500~5000ppmを加えてなるメルトイン

№	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
					デックスが2~50g/10分の組成物を基材に溶解押出ラミネートすることを特徴とする低温で熱融着可能な熱融着層を有するラミネートの製造方法。
30	48-80494 (48. 7.19)	52-36551 (52. 9.16)	906222 (53. 4.18)	耐衝撃性スチレン系樹脂の製造方法 (齊藤 光高, 植村 勝, 鈴木 祐二, 佐藤 真一)	懸濁安定剤の水溶液中に分散させた酢酸ビニル含量 15~50 wt% のエチレン-酢酸ビニル共重合体を懸濁状態を保持したまま架橋させ、これにひきつづきアクリロニトリルとスチレンを加え、有機過酸化物を用いて懸濁重合させることを特徴とする耐衝撃性スチレン系樹脂の製法。
31	50-62532 (50. 5.27)	52-31254 (52. 8.13)	906223 (53. 4.18)	塗被紙用組成物 (小坂勇次郎, 井村 信一, 藤田 宜宏, 今浜 敏信)	a) 顔料, b) 澱粉または変性澱粉を一成分とする接着剤および c) グリオキザール, 尿素樹脂, メラミン樹脂, メチロールメラミン樹脂より選ばれた上記澱粉類の耐水化剤, 以上の三者を主成分とする組成物にビニルスルホン酸のアルカリ塩重合体または共重合体を前記顔料100重量部に対して0.05~10重量部の範囲で配合してなる塗被紙用組成物。
32	50-55630 (50. 5. 8)	52-35711 (52. 9.10)	907646 (53. 5. 8)	管状型反応器の重合工程の制御方式 (久保 正宏, 佐知 清吾, 根津 和雄, 郷 久雄) (横河電機製作所と共願)	1個または複数個の原料ガス供給側路が長さ方向の途中に結合された管状型反応器を用いる高圧法ポリエチレン重合工程において、側路を流れる原料ガスの量を調節するべく設けられた弁の開度を制御する信号が、反応器内部に流動衝撃を与えるべく反応器出口に設けられた弁を開閉するための制御信号あるいはその結果として反応器内に生ずる圧力または温度の変動と関係せしめて補正され得ることを特徴とする管状型反応器の重合工程の制御方式。
33	46-18744 (46. 3.31)	52-39075 (52.10. 3)	907789 (53. 5. 8)	α -オレフィンの重合法 (小坂勇次郎, 植村 勝, 高本 邦夫, 秋元 明)	主鎖に多数のエーテル結合を有する高分子化合物と三塩化チタンを重量比で1:0.5~30の範囲で構成された三塩化チタン組成体とアルキルアルミニウムまたはアルキルアルミニウムハライドからなる触媒を使用して、少くとも3個以上の炭素数を有する α -オレフィンを重合する方法。
34	48-123999 (48.11. 6)	52-39628 (52.10. 6)	907790 (53. 5. 8)	塩化ビニル系樹脂発泡体の製造方法 (小坂勇次郎, 植村 勝, 野口 勉, 岡田 宏亮)	エチレン-酢酸ビニル共重合体の含有率が8~50重量%の、エチレン-酢酸ビニル共重合体に塩化ビニルをグラフト共重合体して得られる樹脂にアジカルボンアミド、半減期1分の分解温度が160~190°Cの範囲にある有機過酸化物と安定剤を分散混合した組成物をプレス温度150~190°Cで加圧下に加熱して発泡させることを特徴とする均一微細な独立気泡を有する、変色のない塩化ビニル系樹脂発泡体の製造方法。
35	49-104947 (49. 9.13)	52-39704 (52.10. 6)	907791 (53. 5. 8)	通水、通気性のある成形体の製造方法 (小坂勇次郎, 植村 勝, 山本 鉄也, 俵口 照海, 青木 哲也, 岡田 宏亮, 村上 興功)	熱可塑性樹脂に該樹脂の軟化温度より少なくとも30°C以上高い軟化温度を有し、かつ吸湿性を有する物質で少なくとも0.1mm以上の大きさで、水分を少なくとも0.3%以上吸湿した又は湿潤させた状態で配合してこの物質の軟化温度より低く、該熱可塑性樹脂の軟化温度より高く、かつ、水の沸点より高い温度で、押出成形した後、直ちに急冷する事の特徴とする通水、通気性のある成形体の製造方法。

№	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要 旨
36	50-70165 (50. 6.12)	52-32987 (52. 8.25)	907792 (53. 5. 8)	重合体エマルジョンの製造方法 (清水 明彦, 林 隆夫)	エチレン性不飽和二重結合を有する単量体中で該単量体100重量部に対して0.1~10重量部の活性ハロゲンを含むビニル単量体と0.1~10重量部の高級アミンを反応させ、次いで水を加えてラジカル重合することを特徴とする低乳化剤カチオン型重合体エマルジョンの製造方法。
37	50-70166 (50. 6.12)	52-32988 (52. 8.25)	907793 (53. 5. 8)	重合体エマルジョンの製造法 (清水 明彦, 林 隆夫)	<p>水系媒体中、全単量体100重量部あたり0.1~10重量部の一般式</p> $ \begin{array}{c} R_1 \\ \\ (CH_2=C-CH_2)_n^{\oplus} N \begin{array}{l} \diagup (R_2)_{3-n} \\ \diagdown R_3 \end{array} X^{\ominus} \end{array} $ <p>(但し、R₁ は水素もしくはメチル基、R₂ は水素メチル基もしくはエチル基、R₃ は炭素数が6から22までのアルキル基、n は1, 2, 3、X はハロゲンである) で表わされる化合物の存在下エチレン性二重結合を有する単量体をラジカル重合することを特徴とするカチオン型重合体エマルジョンの製造法。</p>
38	47-56071 (47. 6. 7)	52-36519 (52. 9.16)	908750 (53. 5. 8)	ポリ塩化ビニルを原料として活性炭を製造する方法 (大槻 進, 宮之原 勲, 水井 規雅, 河村 秀雄)	ポリ塩化ビニルを酸素雰囲気下あるいは酸化性物質の存在下で加熱して脱塩化水素反応生成物を調製し、次いで該生成物を賦活あるいは炭化、賦活することからなるポリ塩化ビニルを原料として活性炭を製造する方法。
39	48-74868 (48. 7. 4)	52-38597 (52. 9.29)	908751 (53. 5. 8)	不飽和ポリエステル製の製法 (小坂勇次郎, 植村 勝, 高本 邦夫, 秋元 明)	<p>触媒として、一般式</p> $ \begin{array}{c} \text{ONa} \\ \diagup \\ R_1O-P \\ \\ O \\ \diagdown \\ \text{ONa} \end{array} $ <p>(ここで R₁ は炭素数1から20までを有する飽和または不飽和の脂肪族炭化水素残基、芳香族炭化水素残基またはその両者を有する残基である。)</p> <p>もしくは、$R_1O-(CH_2CH_2O)_n-P$ (構造式参照)</p> <p>(ここで R₁ は前記 R₁ と同一であり、n は1から3の整数である。) で表わされる化合物を用いることを特徴とする。少くともその一部が無水マレイン酸であるジカルボン酸無水物とアルキレンオキッドから不飽和ポリエステルを製造する方法。</p>
40	49-35194 (49. 3.30)	52-39657 (52.10. 6)	908752 (53. 5. 8)	ゴム状弾性体の製法 (宮川 俊男, 小林 政明, 山下 晋三, 三道 克己)	a) ヒドロキシル基を有するブタジエン重合体またはブタジエン共重合体と、b) ヒドロキシル基をその分子内に少くとも2個以上有する可塑剤とを混成し、c) この混成ゴムの有する全ヒドロキシル基にたいして0.1から5モル倍ま

№	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
					でのシクロヘキシル基含有ジイソシアナートを添加して共加硫を施すことを特徴とするゴム状弾性体の製法。
41	47-53831 (47. 6. 1)	52-42754 (52.10.26)	910948 (53. 6.14)	ポリ塩化ビニルから活性炭を製造する方法 (大槻 進, 宮之原 勲, 水井 規雅, 河村 秀雄)	塩化ビニル系樹脂を粉碎して流動層に送り込むとともに, 流動媒体に随伴して流動層内を移動させ, 流動層内を移動する過程で250~600°Cの温度範囲で脱塩素乾留し, 次いで脱塩素された乾留物を700~1000°Cの温度範囲で水蒸気賦活することを特徴とする塩化ビニル系樹脂を原料とする活性炭の製造法。
42	50-69565 (50. 6.11)	52-39928 (52.10. 7)	911046 (53. 6.21)	クレーコート紙用組成物 (小坂勇次郎, 井村 信一, 江村 徳昭, 今浜 敏信)	a) 顔料, b) 澱粉または変性澱粉を一成分とする接着剤, および c) グリオキザール, 尿素樹脂, メラミン樹脂, メチロールメラミン樹脂より選ばれた上記澱粉類の耐水化剤, 以上の三者を主成分とする組成物に, グリコン酸, グリコン酸の塩またはグリコノラクトンを前記顔料100重量部に対して0.05~10重量部の範囲で配合してなるクレーコート紙用組成物。
43	48-141910 (48.12.20)	52-9561 (52. 3.17)	913151 (53. 7.21)	溶銑脱硫剤 (前田 宏, 山鹿 素雄, 中島 廣久, 堀 恭一, 有家 潤二, 有馬賢一郎) (日本鋼管と共願)	(1) 炭酸ソーダ100重量部に対して亜鉄酸ソーダ30~70重量部を混合した混合物を粒径3~40mmに造粒したことを特徴とする溶銑脱硫剤。 (2) 炭酸ソーダ100重量部に対して亜鉄酸ソーダ30~70重量部, 苛性ソーダ40重量部以下を混合した混合物を粒径3~40mmに造粒したことを特徴とする溶銑脱硫剤。
44	46-68523 (46. 9. 7)	52-43829 (52.11. 2)	913417 (53. 7.21)	シクロドデカノールの製造方法 (小野 勲, 古賀 俊国, 柳原 忠久, 深堀建太郎, 西村 滋哲)	シクロドセンと硫酸の反応により得られるシクロドデカン酸性硫酸エステルに, 温度を0~50°Cに保持して加水分解後の水/硫酸の重量比が0.6以上になるように水(または水水)を加えた後, 加水分解することを特徴とするシクロドデカノールの製造方法。
45	47-99777 (47.10. 6)	52-43182 (52.10.28)	913424 (53. 7.21)	酸化イオウを含有する排ガスの脱硫法 (川澄 義明)	海水に石灰乳を加え, 得られる水酸化マグネシウムを沈降させ, 脱マグネシウム海水と水酸化マグネシウムスラリーとし, このスラリーを必要に応じて水或は海水で洗浄した後酸化イオウを吸収させて亜硫酸マグネシウムを含む水酸化マグネシウムスラリーとし, ついで亜硫酸マグネシウムを酸化して硫酸マグネシウムを含む水酸化マグネシウムスラリーとし, これを分離して得られる硫酸マグネシウム溶液をそのまま, 又は前記脱マグネシウム海水と混合して海に排棄し, 硫酸マグネシウム溶液と分離した水酸化マグネシウムスラリーを前記海水から得られる水酸化マグネシウムスラリーと混じて酸化イオウ含有排ガスと接触させる事を特徴とする酸化イオウを含有する排ガスの脱硫法。
46	48-92099 (48. 8.18)	52-44348 (52.11. 7)	913440 (53. 7.21)	ポリ塩化ビニルの多孔性成型物を製造する方法 (大槻 進, 宮之原 勲, 水井 規雅)	懸濁重合法で製造したポリ塩化ビニルを主体とした樹脂を粉碎して粒度200メッシュ通過が80重量%以上である粉末樹脂となし, これに水または/および有機溶剤を混練し加熱溶融するこ

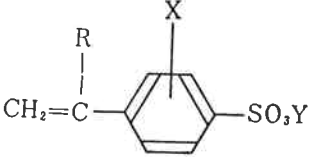
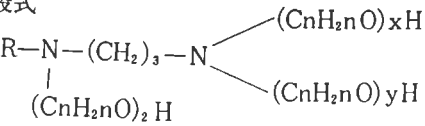
№	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要 旨
					となしに押出成型し、次いで熱処理すると同時に水分または／および有機溶剤を除去することからなるポリ塩化ビニルの多孔性成型物を製造する方法。
47	48-92100 (48. 8.18)	52-44349 (52.11. 7)	913441 (53. 7.21)	ポリ塩化ビニルの多孔性成型物の製造法 (大槻 進, 宮之原 勲, 水井 規雅)	乳化重合法で製造したポリ塩化ビニルを主体とする樹脂（粒子径約 0.1~50 μ ）に乳化破壊剤と水を添加混合し混練後加熱溶解することなしに押出成型し、次いで熱処理すると同時に水分を除去することからなるポリ塩化ビニルの多孔性成型物の製造法。
48	49-45132 (49. 4.23)	52-44574 (52.11. 9)	913452 (53. 7.21)	エチレン-酢酸ビニル共重合体イオウ加硫物の製法 (宮川 俊男, 小林 政明, 井上 則男, 高橋 義明)	a) エチレン-酢酸ビニル共重合体に, b), a) にたいして0.5から8.0重量%までのサルフォニ酸基を有する化合物またはハロゲンのオキソ酸を添加して加温処理し, さらに c), a) にたいして0.2から5.0重量%までのイオウを混成したのち, または a), b) および c) を同時に混成したのち, 加硫を行うことによるエチレン-酢酸ビニル共重合体イオウ加硫物の製法。
49	49-51273 (49. 5.10)	52-44575 (52.11. 9)	913455 (53. 7.21)	二重結合含有ゴム組成物の製法 (宮川 俊男, 小林 政明, 井上 則男, 高橋 義明)	a) 二重結合含有ゴム85~15重量部に, b) エチレン-酢酸ビニル共重合体にこのエチレン-酢酸ビニル共重合体に対して0.5から8.0重量%までのサルフォニ酸基を有する化合物またはハロゲンのオキソ酸を添加して, あらかじめ加温処理を施したのちまたは加温処理を施さないもの15~35重量部および, c) a) と b) との合計量に対して0.2から5.0重量%までのイオウを混成したのち, 加硫を行うことによる二重結合含有ゴム組成物の製法。
50	49-73422 (49. 6.28)	52-43675 (52.11. 1)	913458 (53. 7.21)	p-スチレンスルホン酸アンモニウム重合体の製造方法 (服部 達夫, 玉林 範三, 桂川 寛二, 木原 啓一, 小野 勲)	アルコール系溶媒または有機溶媒と水との混合溶媒中で, p-スチレンスルホン酸アルカリ金属塩単量体を無機アンモニウム塩の共存下で重合せしめることを特徴とする p-スチレンスルホン酸アンモニウム重合体の製造方法。
51	49-147651 (49.12.24)	52-3920 (52. 1.31)	913468 (53. 7.21)	α 型半水石膏の製造法 (佐藤 孝男, 井川 一成, 菊地 光雄)	湿式リン酸製造プラントより副生する付着水を有した α 型半水石膏を乾燥, 粉碎後, 90 $^{\circ}$ C 以上の温度において熱処理を施すことを特徴とする初期凝結性の安定した α 型半水石膏の製造法。
52	49-87172 (49. 7.30)	52-44584 (52.11. 9)	914551 (53. 7.21)	ホットメルト材加工押出装置 (植村 勝, 笠松 正, 秋山 利光, 黒木 齊, 小坂勇次郎) (笠松化工と共願)	ホットメルト材原料供給用ホッパー口, このホッパー口に接続する, 実質的に円すい形で先端部が開口し, かつ, 比較的粗面に形成された大口径部を有する中空シリンダー, このシリンダーを加熱する機構, 前記シリンダーの内部で回転可能な円すい形スクリュウ機構, このスクリュウの大径部の冷却度を高めるための冷却機構, このスクリュウの軸表面と前記シリンダー内壁の間隙が開口部先端および供給口において1:2~10の比率で形成され, かつ, シリンダー壁面とこの壁面に隣接して回転するスクリュウのねじ山部に少なくとも1個の細溝および切欠溝が, 前記ホッパー口と前記先端部の中間部よりホッパー口寄りに形成されていることを特徴とするホットメルト材加工押出装置。

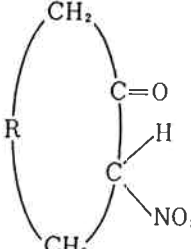
№	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
53	49-87173 (49. 7. 30) (植村 勝, 笠松 正, 秋山 利光, 黒木 斉, 小坂勇次郎) (笠松化工と共願)	52-44585 (52. 11. 9)	914552 (53. 7. 21)	ホットメルト材加工押 出方法	ホットメルト材原料を入れるホッパー口、このホッパー口に連通する大口径シリンダー、テーパー状シリンダーおよび小口径シリンダーより形成されるシリンダー部分、このシリンダー部分の延長周囲部をとりまく加熱機構、および、前記シリンダーの内孔部と対応する形状を有し、かつ、その内部で回転可能なスクリュー機構を用いてホットメルト材原料を熔融加工押出する際に、前記大口径シリンダーから小口径シリンダーの吐出口先端部への温度勾配が漸増するように維持するとともに、大径スクリューから先端部への冷却温度勾配が漸減するように維持し、かつ、大径スクリューの温度を、対応する大口径シリンダーの温度より低くするとともに、先端部に進むにしたがって、上記の温度差を小さくするようにしたことを特徴とするホットメルト材加工押出方法。
54	49-87174 (49. 7. 30) (植村 勝, 笠松 正, 秋山 利光, 黒木 斉, 小坂勇次郎) (笠松化工と共願)	52-44783 (52. 11. 10)	914553 (53. 7. 21)	ホットメルト材加工押 出装置	ホットメルト材原料の供給部、この供給部に連通する、大口径シリンダー、テーパー状シリンダーおよび小口径シリンダーより形成されたシリンダー部分、このシリンダー部分の延長周囲部をとりまく加熱機構および前記シリンダーの内孔部と対応する形状を有し、かつ、その内部で回転可能なスクリュー機構を有するホットメルト材押出加工装置において、前記テーパー状シリンダーおよび前記スクリュー機構のテーパースクリューの部分の、双方又は一方の周面に細溝および切欠部がそれぞれ形成されており、かつ、前記スクリュー機構の冷却温度を大径スクリューから小径スクリューに向かって漸減するような冷却機構を備えるとともに前記テーパー状シリンダーと小口径シリンダー先端の内面仕上精度比率が1:4~20、であるような仕上勾配を有することを特徴とする押出装置。
55	41-69145 (41. 10. 20) (矢守 勝二, 高德 宗忠, 宮原 昭三, 大曲 隆昭, 北村 匡男)	52-18158 (52. 5. 19)	915949 (53. 7. 21)	水銀法塩化アルカリ電 解による苛性アルカリ 製造工程における塩水 精製槽に生ずるスラッ ジよりの、水銀回収処 理法	水銀法塩化アルカリ電解による苛性アルカリ製造工程において、塩化アルカリ水精製槽に生ずるスラッジをそのまま、又はスラッジを汙別した固形物を塩酸などの強酸に溶解し、アルカリで中和し又は中和することなく、アニオン交換体と接触せしめて水銀を該交換体に吸着せしめ、該交換体を塩酸又は硫酸で処理して水銀を脱着し、その脱着液を精製塩化アルカリ水の中和に用い、この中和された精製塩化アルカリ水を電解槽に送る水銀電解用塩化アルカリ水精製槽に生ずるスラッジよりの水銀回収処理法。
56	49-118374 (49. 10. 15) (小坂勇次郎, 深野 一幸, 植村 勝)	52-47355 (52. 12. 1)	916817 (53. 8. 15)	クロマトグラフィー用 担体	多孔性無機物に重合性単量体を架橋剤の存在下又は不存在下に含浸し、該重合性単量体を放射線重合して、多孔性の放射線重合体皮膜を有する無機体を形成せしめたことを特徴とするクロマトグラフィー用担体。

No	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
57	47-100305 (47.10.7)	52-47514 (52.12.2)	917351 (53.8.15)	新規カルボキシル化エチレン系共重合体の製造方法 (小坂勇次郎, 植村 勝, 木村 正歳, 斉藤 光高)	ラジカル重合が可能な二重結合を有する側鎖を導入することによって活性化されたエチレン-酢酸ビニル共重合体の存在下で $\alpha\beta$ の位置がエチレン的に不飽和なカルボン酸およびアルキルアクリレートと重合させることからなるグラフト共重合体を含む接着用の重合体の製造方法。
58	48-12057 (48.1.31)	52-46226 (52.11.22)	917381 (53.8.15)	テトラヒドロフラン過酸化物の製造法 (真淵 俊介, 雲井 貞勝, 水野 敏勝)	テトラヒドロフランに酸素または酸素を含有する気体を通じ, 反応温度60~120°Cで液相にて反応を行うことを特徴とするテトラヒドロフラン過酸化物の製造法。
59	49-43449 (49.4.19)	52-47800 (52.12.5)	917456 (53.8.15)	エチレンイミングラフト共重合体の製造方法 (小坂勇次郎, 井村 信一, 斉藤 光高, 杉原 啓二)	エチレン-酢酸ビニル共重合体の存在下にエチレンイミンをカチオン重合触媒によりグラフト共重合することを特徴とするエチレンイミングラフト共重合体の製造方法。
60	49-117693 (49.10.15)	52-47943 (52.12.16)	917483 (53.8.15)	クロロプレン粉末ゴムの製造法 (清水 明彦, 坂中 靖弘)	クロロプレン重合体またはクロロプレン共重合体のカチオン系ラテックスに水ガラスをラテックス中のゴム分100部に対し, 4~10部添加した混合ラテックスにアルカリ土類金属塩あるいは酸を加えて, ゴム粒子を微粉化させることを特徴とするクロロプレン粉末ゴムの製造法。
61	49-147649 (49.12.24)	52-47358 (52.12.1)	917489 (53.8.15)	液体クロマトグラフィー用担体の製造法 (小坂勇次郎, 植村 勝, 深野 一幸, 影山 英一, 日馬 康雄, 宇田川 昂) (日本原子力研究所と共願)	シリカゲルに微量のラジカル重合禁止剤の存在下で, ビニル単量体を放射線グラフト重合することを特徴とする液体クロマトグラフィー用担体の製造法。
62	50-117276 (50.9.30)	52-48518 (52.12.10)	917510 (53.8.15)	液体クロマトグラフィー用担体の製造法 (井村 信一, 深野 一幸)	比表面積 5~1500 m ² /g を有し, 平均細孔径 20~2000 Å で粒子径が 1 μm~1 mm であるシリカ, アルミナ, ゼオライト, 多孔性ガラス, カーボンゲルから選ばれる無機担体にラジカル重合性単量体および/または架橋剤をラジカル重合開始剤とともに含浸し, 架橋重合したる後, 可溶性重合体部分を抽出し, 該無機担体に対し 5~50重量%の架橋重合体を該無機担体表面, 内部に形成せしめたことを特徴とする液体クロマトグラフィー用担体の製造法。
63	42-34621 (42.5.31)	52-37488 (52.9.22)	920224 (53.8.22)	エチレン-酢酸ビニル共重合体の部分加水分解物を主体とした組成物 (小坂勇次郎, 植村 勝, 斉藤 光高)	a) 酢酸ビニルの含有量が15重量%以上のエチレン-酢酸ビニル共重合体の酢酸ビニルが20%以上加水分解されたエチレン-酢酸ビニル共重合体の部分加水分解物30(重量)%以上。 b) パラフィンワックス, 塩素化パラフィンなど石油系ワックスおよび/またはその塩素化物70(重量)%以下。 c) 粘着性樹脂すなわち木材ロジン, 安定化したロジンおよび/またはこれらとエチレングリコール, ホリエチレングリコール類とのエステル70(重量)%以下からなる接着力大なるホットメルト組成物。

No	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
64	47-102723 (47.10.16)	51-23394 (51.7.16)	920228 (53.8.22)	懸濁液の処理方法	製鉄高炉滓を粉碎し、鉱酸で処理反応させて得られる生成物を凝固剤として単独に使用するか、あるいは水溶性有機高分子量重合体を凝集剤として併用することを特徴とする懸濁液の処理方法。
65	47-56073 (47.6.7)	53-390 (53.1.7)	920931 (53.8.22)	重金属捕捉材	ポリ塩化ビニル酸化樹脂またはポリ塩化ビニル部分脱塩酸酸化樹脂に、アミノ基、イミノ基、ヒドロキシル基、カルボキシル基、カルボニル基、チオカルボニル基およびチオ基からなる群から選ばれた少なくとも1種の基を付与させた重金属捕捉材。
66	50-34950 (50.3.25)	53-994 (53.1.13)	920969 (53.8.22)	単量体の重合方法	アニオン重合可能な単量体と重合溶媒からなる重合系内に、重合開始剤として該重合溶媒に難溶な高粘度溶剤に溶解した有機金属化合物を添加し、重合することを特徴とする単量体の重合方法。
67	46-95290 (46.11.29)	53-2079 (53.1.25)	921867 (53.9.5)	プラスチック用衝撃試験機	測定ケース内に加温器及び冷却手段を設けて測定ケース内を所定温度になるようにし、かつ測定ケース上壁に撃芯ガイド及びこの撃芯ガイド内に摺動する撃芯を設け、さらに測定ケース外にその撃芯に衝撃を付与する錘落下機構を設け、また測定ケース内には試験片受台、試験片供給回転盤及び試験片固定器等からなる測定機構を設け、前記試験片回転供給盤にはその中心から射出した試験片を挾持するスポーク、その中心に垂直に回転軸を設け、さらにこの回転軸に軸支するハンドルによって試験片回転供給盤を測定ケース外から操作し得るようにし、前記錘落下機構には錘、錘を支持するアーム及びこれを固定する支柱を設けた機構からなるプラスチック用衝撃試験機。
68	47-100306 (47.10.7)	53-1798 (53.1.21)	921891 (53.9.5)	塩化ビニルグラフト共重合体の製造方法	エチレン-酢酸ビニル共重合体の存在下塩化ビニルを重合させて塩化ビニルグラフト共重合体を製造するに当り、1,2-ジクロロエタンを共存させて塩化ビニルを重合させることを特徴とする、塩化ビニルグラフト共重合体の製造方法。
69	48-124209 (48.11.5)	52-49828 (52.12.20)		管状形反応器を用いた重合反応の制御方式	管状形反応器の内部の温度を測定すべくこの反応器の反応領域に取付けられた温度検出器と、温度検出器の出力信号が与えられL/D弁を開にする時刻における温度検出器の出力信号の値を目標値として固定する温度比較器と、前記目標値と温度検出器の出力信号との偏差が一定値に達した時刻から前記温度回復時間の変化量に比例した時間と一定時間とを加えた時間経過したのち次のL/D弁を開にする信号を発生するとともにこの開信号発生時刻より予め定められた一定時間間隔を置いてL/D弁を閉にする信号を発生するプログラム装置を具備し、このプログラム装置の出力信号に応じて開閉されるL/D弁を使用して重合反応の制御を行なうようにした管状形反応器を用いた高圧ポリエチレンの重合反応の制御方式。

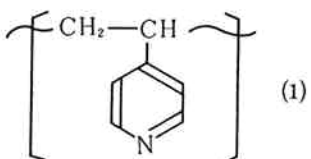
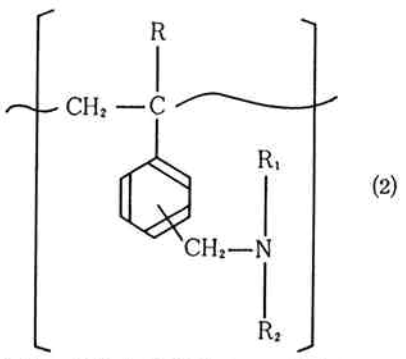
No	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
70	48-132195 (48.11.27)	51-47689 (51.12.16)	921920 (53. 9. 5)	シアノ基を有する共役ジエンの製造方法 (野中 悠次, 木原 啓一, 弘中 敏夫, 小田 康弘)	<p>一般式</p> $\begin{array}{c} \text{CN} \quad \text{R}_1 \\ \quad \\ \text{OH}_2=\text{C}-\text{CH}-\text{CH}-\text{R}_2 \\ \\ \text{OH} \end{array}$ <p>で表わされる2-シアノ-3-ヒドロキシ-1-オレフィン化合物を、無水の塩基性物質の存在下で脱水化することによって、一般式</p> $\begin{array}{c} \text{CN} \quad \text{R}_1 \\ \quad \\ \text{OH}_2=\text{C}-\text{CH}=\text{C}-\text{R}_2 \end{array}$ <p>で表わされるシアノ基を有する共役ジエン（ただし、上記の一般式中 R₁, R₂ は水素原子、アルキル基またはフェニル基を示す。）を製造することを特徴とするシアノ基を有する共役ジエンの製造方法。</p>
71	49-132224 (49.11.16)	53-1080 (53. 1.14)	922378 (53. 9. 5)	フッ素化合物含有炭酸アルカリ類の精製法 (大槻 進, 有家 潤二, 櫻部 光信, 竹重 浩佑)	<p>フッ素化合物を含有する天然ソーダ又はこれから得られた炭酸アルカリ類化合物を重炭酸マグネシウムの存在下に水に溶解することによって該炭酸アルカリ類化合物よりフッ素化合物を分離、除去することを特徴とする炭酸アルカリ類化合物の精製法。</p>
72	49-95094 (49. 8.21)	53-2450 (53. 1.28)	923655 (53. 9.22)	エチレン酢酸ビニル共重合体の無臭化法 (小坂勇次郎, 江村 徳昭, 渡辺 修三)	<p>エチレン酢酸ビニル共重合体に、油性アルキルフェノール樹脂を0.05～5重量%添加することを特徴とするエチレン酢酸ビニル共重合体の無臭化法。</p>
73	47-60246 (47. 6.16)	52-50782 (52.12.27)	924057 (53. 9.22)	ニトロオキシデーショ ン反応液成分分離法 (山田 静夫, 佐々木博朗, 田中 哲夫)	<p>シクロアルケンのニトロオキシデーション反応混合物あるいは該反応混合物から触媒および/または硝酸を除いた液にアンモニアを添加して、硝酸、触媒および2-ニトロシクロアルカンのいずれか少くとも1つを分離することを特徴とする該ニトロオキシデーション反応液の成分分離法。</p>
74	49-79797 (49. 7.12)	53-2258 (53. 1.26)	924101 (53. 9.22)	弾性舗装体の製造方法 (小坂勇次郎, 中沢 秀昭, 新谷 孝司, 岡本 奏一)	<p>弾性骨材をラテックスで結合して弾性舗装体を製造する際に、1～80メッシュの弾性骨材とこの弾性骨材に対し、固形分が10wt%以上のラテックスを使用し、更にラテックスの固形分に対しレゾルシン-ホルマリン樹脂を0.05～20wt%共存させることを特徴とする弾性舗装体の製造方法。</p>
75	49-89494 (49. 8. 6)	53-4030 (53. 2.13)	925516 (53. 9.22)	クロロプレンゴムラテ ックスの製造法 (清水 明彦, 林 隆夫)	<p>少なくとも一種以上のエチレン性不飽和二重結合とスルホン酸基を有する下記の一般式</p> $\begin{array}{c} \text{HC}-\text{CO}_2-\text{Q}-\text{SO}_3\text{X} \\ \\ \text{HC}-\text{CO}_2\text{R} \end{array}$ <p>（ただし、Rは C₈～C₂₂ のアルキル基、Qは C₂～C₈ のアルキレン基、XはHまたはアルカリ金属、第四級アンモニウムである。） で表わされる反応性乳化剤の存在下で乳化重合することにより凍結安定性のすぐれたクロロプレンゴムラテックスの製造法。</p>

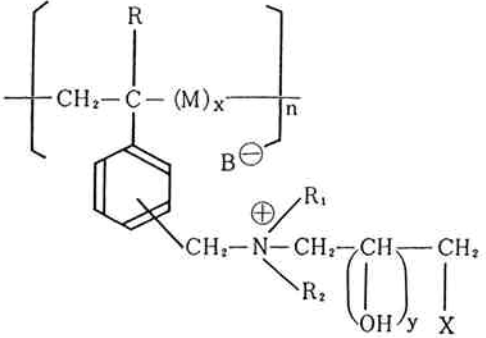
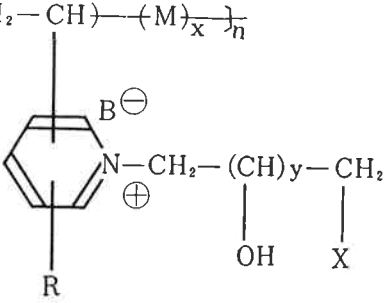
№	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
76	49-89495 (49. 8. 6)	53-4031 (53. 2.13)	925517 (53. 9.22)	クロロプレンの乳化重合法	<p>少なくとも一種以上のアニオンもしくは非イオン乳化剤と少なくとも一種以上の下記の一般式</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>(ただし、式中Rは水素原子、低級アルキル基であり、Xは水素原子、低級アルキル基、ハロゲン原子、水酸基であり、Yは水素原子、カリウム、ナトリウム、第四級アンモニウムである)で表わされるエチレン性不飽和芳香族スルホン酸あるいはその塩の存在下で重合を行うことを特徴とするクロロプレンの乳化重合法。</p>
77	49-89497 (49. 8. 6)	53-4032 (53. 2.13)	925518 (53. 9.22)	硫黄変性ポリクロロプレンの製造方法	<p>硫黄および過酸化触媒の存在において、カチオン乳化剤を用いて中性ないし酸性の水性乳濁液中でクロロプレンを重合せしめ、得られた硫黄変性ポリクロロプレンをラテックスにアルカリ水溶液を加えて解膠することを特徴とする硫黄変性ポリクロロプレンの製造方法。</p>
78	49-107712 (49. 9.20)	53-4017 (53. 2.13)	925520 (53. 9.22)	有孔性成型体の製法	<p>熱可塑性樹脂に、該樹脂の少なくとも軟化温度において水を発生することのできる結晶水含有無機塩①および物理的に吸収された水を有する微粉末状無機物質②のうち少なくとも1種類と、核樹脂の軟化温度より30°C以上高い軟化温度を有し、大きさが0.1 mm以上の物質③とを配合して、③の物質の軟化温度より低く、該熱可塑性樹脂の軟化温度あるいはそれより高く、かつ、水の沸点より高い温度で押出成形した後、直ちに急冷する事の特徴とする通液、通気性のある有孔性成型体の製法。</p>
79	50-139197 (50.11.21)	53-4105 (53. 2.14)	925528 (53. 9.22)	重合体エマルジョンの製造法	<p>(i)少なくとも一種の不飽和酸の存在下でビニル系単量体を水性媒体中でラジカル重合することにより得られる低表面活性剤ビニル系重合体エマルジョンを母体として(ii)該ビニル系重合体エマルジョン100重量部当り10~120重量%の共役ジエン系単量体をラジカル重合して重合体エマルジョンを製造し、次いで(iii)該重合体エマルジョンに1重量%以上のビニル系単量体もしくはビニル系単量体と不飽和酸の混合物を加えてラジカル重合することを特徴とする再分散性を有する重合体粒子からなる熱可逆的安定性にすぐれた重合体エマルジョンの製造法。</p>
80	48-35975 (48. 3.29)	53-3425 (53. 2. 6)	925770 (53. 9.22)	ポリクロロブレンラテックスの製法	<p>クロロプレンの乳化重合またはクロロブレンおよびクロロブレンと共重合可能なモノマーとの乳化共重合において、</p> <p>一般式</p> <div style="text-align: center;">  </div>

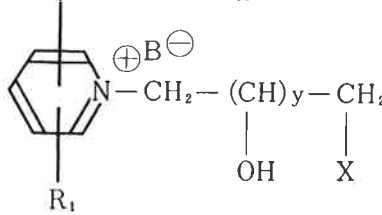
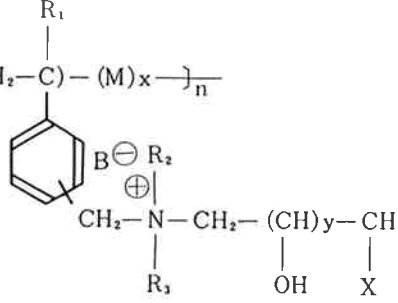
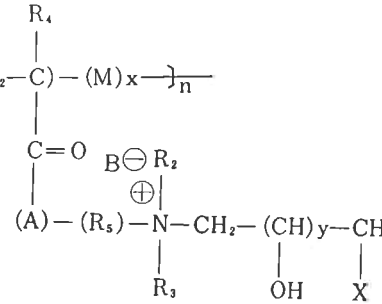
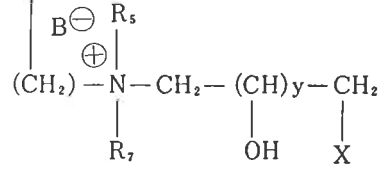
№	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発 明 の 名 称	要 旨
					<p>(但し、Rは炭素数12から20の飽和または不飽和脂肪族炭化水素基、X、Y、Zは $0 \leq X + Y + Z \leq 3$ を満足する0又は正の数、nは2または3である。)</p> <p>で表わされるものの有機酸塩または／および無機酸塩のカチオン性乳化剤および炭素数4から10の n-アルキルメルカプタンの存在下または不存在下で重合させることを特徴とするポリクロロブレンラテックスの製法。</p>
81	48-35976 (48. 3.29)	53-3426 (53. 2. 6)	925771 (53. 9.22)	ポリクロロブレンラテックスの製造方法 (中沢 秀昭, 飯国 鉄男, 明石 光正)	クロロブレンの乳化重合またはクロロブレンおよびクロロブレンと共重合可能なモノマーとの乳化共重合において、カチオン性乳化剤及びアルミナゾルの存在下、酸性または中性領域で重合をおこなうことを特徴とするポリクロロブレンラテックスの製造方法。
82	48-67544 (48. 6.15)	53-3381 (53. 2. 6)	925775 (53. 9.22)	ニトロ化合物の分離精製法 (佐々木博朗, 竹本 久雄, 田子 和夫)	<p>炭素数6ないし12のシクロアルケン、シクロアルカジエン、シクロアルカトリエンまたはこれらの混合物に非水溶性有機溶媒中で過酸化窒素と酸素とを反応させて得られる反応液から一般式</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>[ただしRは $(\text{CH}_2-\text{CH}_2)_n$、(ただし n は 1 ないし 4) $-\text{CH}_2-\text{CH}=\text{CH}-\text{CH}_2-$ $-\text{CH}_2-\text{CH}=\text{CH}-(\text{CH}_2)_5-$ $-(\text{CH}_2)_5-\text{CH}=\text{CH}-\text{CH}_2-$ または $-\text{CH}_2-\text{CH}=\text{CH}-(\text{CH}_2)_2-\text{CH}=\text{CH}-\text{CH}_2-$ を示す。]</p> <p>で表わされる環状 α-ニトロケトンを実アルカリ水溶液をもちいて該環状 α-ニトロケトンのアン塩および／または該環状 α-ニトロケトンの開環物に相当する ω-ニトロカルボン酸塩として抽出することを特徴とする環状 α-ニトロケトンの分離精製法。</p>
83	48-111208 (48.10. 3)	53-3767 (53. 2. 9)	925781 (53. 9.22)	カラー舗装組成物 (小坂勇次郎, 中沢 秀昭, 福士 直文, 會士崎順市) (東邦産業と共願)	カチオン性界面活性剤の存在下に重合又は調製されたエラストマーラテックスにゲル化調節剤としてセメントを全固形分量に対して1~15重量%添加し、骨材、顔料または染料よりなるカラー舗装組成物。
84	49-127058 (49.11. 6)	53-4033 (53. 2.13)	925814 (53. 9.22)	クロロブレンの重合法 (清水 明彦, 林 隆夫)	水性媒体中で、系に加えられる全単量体量を基準にして0.2~10 wt% の少なくとも一種以上のスチレンスルホン酸もしくはその誘導体の存在下でラジカル重合することを特徴とするクロロブレンゴムラテックスの製法。

№	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
85	50-70161 (50. 6.12)	53-5047 (53. 2.23)	926982 (53. 9.22)	粉末熱接着樹脂	粉末状のポリオレフィン樹脂 100 重量部の表面に多塩基酸多価アルコールから得られた不飽和アルキド 0.3~10 重量部および有機過酸化物 0.03~5 重量部を被覆処理してなる粉末熱接着樹脂。
86	47-4322 (47. 1. 7)	53-6254 (53. 3. 6)	927793 (53.10.13)	アクリル系繊維の防炎処理法	<p>アクリル系繊維の湿式紡糸段階で、</p> $\begin{array}{c} R_1 \\ \\ \left(\begin{array}{c} HC \\ \\ N \\ \\ HC \end{array} \right)_n \begin{array}{c} O \\ \\ P(OR)_{3-n} \end{array} \\ \\ R_2 \end{array}$ $\begin{array}{c} R_1 \\ \\ \left(\begin{array}{c} HC \\ \\ N \\ \\ HC \end{array} \right)_2 \begin{array}{c} O \\ \\ P(OR'O) \end{array} \begin{array}{c} O \\ \\ P \left(\begin{array}{c} R_1 \\ \\ CH \\ \\ CH \\ \\ R_2 \end{array} \right)_2 \end{array} \end{array}$ $\begin{array}{c} R_1 \\ \\ \left(\begin{array}{c} HC \\ \\ N \\ \\ HC \end{array} \right)_n \begin{array}{c} O \\ \\ P(OR)_{3-n} \end{array} \\ \\ R_2 \end{array}$ $\begin{array}{c} R_1 \\ \\ \left(\begin{array}{c} HC \\ \\ N \\ \\ HC \end{array} \right)_n \begin{array}{c} S \\ \\ P(OR)_{3-n} \end{array} \\ \\ R_2 \end{array}$ $\begin{array}{c} R_1 \\ \\ \left(\begin{array}{c} HC \\ \\ N \\ \\ HC \end{array} \right)_2 \begin{array}{c} O \\ \\ P(OR'O) \end{array} \begin{array}{c} O \\ \\ P \left(\begin{array}{c} R_1 \\ \\ CH \\ \\ CH \\ \\ R_2 \end{array} \right)_2 \end{array} \end{array}$ $\begin{array}{c} R_1 \\ \\ \left(\begin{array}{c} HC \\ \\ N \\ \\ HC \end{array} \right)_2 \begin{array}{c} S \\ \\ P(OR'O) \end{array} \begin{array}{c} S \\ \\ P \left(\begin{array}{c} R_1 \\ \\ CH \\ \\ CH \\ \\ R_2 \end{array} \right)_2 \end{array} \end{array}$

№	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
					$\begin{array}{c} R_1 \\ \\ \left(\begin{array}{c} \text{HC} \\ \\ \text{HC} \end{array} \right) \text{N} \\ \\ R_2 \end{array} \right)_2 \text{P}(\text{OR}'\text{O}) \text{P} \begin{array}{c} \text{S} \\ \\ \left(\begin{array}{c} \text{CH} \\ \\ \text{CH} \end{array} \right) \text{N} \\ \\ R_2 \end{array} \right)_2, \\ \\ R_1 \\ \\ \left(\begin{array}{c} \text{HC} \\ \\ \text{HC} \end{array} \right) \text{N} \\ \\ R_2 \end{array} \right)_2 \text{P}(\text{OR}'\text{O}) \text{P} \begin{array}{c} \text{O} \\ \\ \left(\begin{array}{c} \text{CH} \\ \\ \text{CH} \end{array} \right) \text{N} \\ \\ R_2 \end{array} \right)_2, \\ \\ R_1 \\ \\ \left(\begin{array}{c} \text{HC} \\ \\ \text{HC} \end{array} \right) \text{N} \\ \\ R_2 \end{array} \right)_2 \text{P}(\text{OR}'\text{O}) \text{P} \begin{array}{c} \text{O} \quad \text{S} \\ \quad \\ \left(\begin{array}{c} \text{CH} \\ \\ \text{CH} \end{array} \right) \text{N} \\ \\ R_2 \end{array} \right)_2,$ <p>(但しRはハロゲンアルキル基またはハロゲンアリール基, R' はハロゲンアルキレン基, R₁とR₂はHまたはアルキル基で, R₁とR₂は相互に同一でも異なってもよい。nは1または2である。)</p> <p>なる化学式で示される化合物の少なくとも1種を有効成分とする防炎化剤で処理することを特徴とするアクリル系繊維の防炎処理法。</p>
87	46-69262 (46. 9. 9)	53-6555 (53. 3. 9)	927792 (53.10.13)	金属アルカリの取扱方法	<p>複数個の連球管の両端にそれぞれ手細管を設け, そのサンプリング管の一端の毛細管を封じ, 他端を真空ポンプと連結してサンプリング管内を減圧とし, このサンプリング管内を減圧に保って他端の毛細管を封じ, ついでこのサンプリング管を金属アルカリ浴中に入れ, 浴中で一端の毛細管を破壊して金属アルカリをサンプリング管内に吸引して充填し, このサンプリング管を加熱熔融装置に装着し, 始めに連球管の最下部の球に含まれる金属アルカリだけを溶解して棄却し, ついでこれにつづく球に含まれる金属アルカリを溶解して, サンプリングすることを特徴とする金属アルカリの取扱方法。</p>
88	47-77317 (47. 8. 3)	53-5653 (53. 3. 1)	927799 (53.10.13)	メタクリロニトリルの製造方法	<p>リン, アンチモン, モリブデンとマンガンの酸化物またはリン, アンチモン, モリブデンとカドミウムの酸化物よりなり, それらのうちでアンチモン, モリブデンとマンガンまたはアンチモン, モリブデンとカドミウムの比率(グラム原子百分率)が, 第2図に示す如くそれらの金属を頂点とする三角図表において, 点A〔Sb=</p>

№	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
					80, Mo=10, Mn または Cd=10], 点B [Sb=33, Mo=57, Mn または Cd=10], 点C [Sb=10, Mo=62, Mn または Cd=28], 点D [Sb=10, Mo=52, Mn または Cd=38], 点E [Sb=33, Mo=24, Mn または Cd=43] および点F [Sb=66, Mo=10, Mn または Cd=24] の6点を結ぶ不等辺六角形の範囲内にあり, かつ, リンがアンチモン, モリブデンとマンガンまたはカドミウムの合計量に対して原子比で0.001/1~0.3/1の範囲内にある触媒を使用して, イソブチレンをアンモニアと分子状酸素とで酸化することを特徴とするメタクリロニトリルの製造方法。
89	49-34649 (49. 3.29)	53-5908 (53. 3. 2)	927824 (53.10.13)	狭い分子量分布をもつ重合体の製造方法 (小坂勇次郎, 井村 信一, 齊藤 光高, 鈴木 祐二, 森下 延男)	三フッ化ホウ素あるいは三フッ化ホウ素錯化合物とハイドロパーオキシドの共存下, カチオン重合可能なビニルモノマーを重合することを特徴とする分子量分布の狭い重合体の製造方法。
90	49-41059 (49. 4.15)	53-6991 (53. 3.13)	927825 (53.10.13)	耐油性およびロール加工性の良好なエチレン-プロピレン-ジエン共重合ゴムの製法 (宮川 俊男, 高橋 義明, 井上 則男)	クロロプレン-ビニル化合物-メタクリル酸不飽和アルキルエステル共重合体をエチレン-プロピレン-ジエン共重合ゴムに混和し, これにイオウ加硫またはパーオキシド加硫を施すことにより得られる耐油性およびロール加工性の良好なエチレン-プロピレン-ジエン共重合ゴムの製法。
91	50-17487 (50. 2.13)	53-6035 (53. 3. 3)	927833 (53.10.13)	ポリ第四級アンモニウム塩の製造方法 (清田 徹, 清水 明彦, 小坂勇次郎)	一般式  <p>および/または</p>  <p>(ただし, Rは水素原子または炭素数1ないし4のアルキル基である。R₁ および R₂ は炭素数1ないし10の炭化水素基である。)で示されるモノマー単位を含有する重合体に核酸塩基および/またはその関連化合物の2'-ヒドロキシ-3'-クロルプロピル誘導体を溶媒中で反応させることを特徴とするポリ第四級アンモニウム塩の製造方法。</p>


No	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
92	50-60241 (50. 5.22)	53-6030 (53. 3. 3)	927835 (53.10.13)	核酸塩基を含むポリイオンコンプレックスの製法 (清田 徹, 清水 明彦, 小坂勇次郎)	<p>下記の一般式</p>  <p>(ただし、Xはアデニン、チミン、シトシン、ウラシルまたは誘導体である。プリン環は9一位で、ピリミジン環は1一位でそれぞれ反応している。Mはビニル系単量体である。Bはハロゲンまたは水酸基である。Rは水素原子または炭素数1ないし4のアルキル基である。R₁およびR₂は炭素数1ないし10の炭化水素基である。xは0を含む任意の数である。yは0ないし1の数である。nは2以上の任意の数である。)で示される核酸塩基含有ポリカチオンポリマーと任意の弱酸型または強酸型ポリアニオンポリマーとから製造される新規のポリイオンコンプレックスの製法。</p>
93	50-62533 (50. 5.27)	53-6032 (53. 3. 3)	927837 (53.10.13)	核酸塩基を含むポリイオンコンプレックスの製造法 (清田 徹, 清水 明彦, 小坂勇次郎)	<p>下記式</p>  <p>(ただし、Xはアデニン、チミン、シトシン、ウラシルまたはそれらの誘導体である。プリン環は9一位で、ピリミジン環は1一位でそれぞれ反応している。Mはビニル系単量体である。Bはハロゲン原子または水酸基である。Rは水素原子または炭素数1ないし4のアルキル基である。xは0を含む任意の数である。nは2以上の任意の数である。yは0ないし1の数である。)で示されるポリカチオンポリマーと任意の弱酸型および/または強酸型ポリアニオンポリマーとを溶媒中で接触させることによって得られるポリイオンコンプレックスの製造法。</p>

No	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
94	50-60242 (50. 5.22)	53-6031 (53. 3. 3)	927836 (53.10.13)	核酸塩基を含むポリイオンコンプレックスの製造方法 (清田 徹, 清水 明彦, 小坂勇次郎)	<p>(1) 一般式</p> $\text{---}\{(\text{CH}_2\text{---CH})\text{---}(\text{M})_x\text{---}\}_n\text{---}$  <p>(2) 一般式</p> $\text{---}\{(\text{CH}_2\text{---C})\text{---}(\text{M})_x\text{---}\}_n\text{---}$  <p>(3) 一般式</p> $\text{---}\{(\text{CH}_2\text{---C})\text{---}(\text{M})_x\text{---}\}_n\text{---}$  <p>(4) 一般式</p> $\text{---}\{(\text{CH}_2\text{---CH})\text{---}(\text{M})_x\text{---}\}_n\text{---}$  <p>(ただし, R₁ は水素原子または炭素数1ないし4のアルキル基である。R₂ と R₃ は炭素数1ないし10の炭化水素基である。R₄ は水素原子またはメチル基である。R₅ は炭素数1ないし6のアルキル基である。R₆ と R₇ は炭素数1ないし4のアルキル基である。Mは電解質ポリマーにならないビニル系単量体である。x は0を含む任意の数である。Bはハロゲン原子および水酸基である。Aは酸素原子または -NH基である。y は0ないし1である。n は10以上の数である。Xはアデニン, チミン, ウラシル,</p>

№	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要 旨
					<p>ントシンおよびその誘導体である。プリン環は9一位で、ピリミジン環は1一位でそれぞれ反応している。)で示される群の中から選ばれる少なくとも1種の核酸塩基含有ポリカチオンポリマーとポリカルボン酸とを溶媒中で反応させることを特徴とする新規のポリイオンコンプレックスの製造方法。</p>
95	47-31138 (47. 3.30)	53-8726 (53. 3.31)	929940 (53.10.17)	塩水マッドコンクリート固型化物 (戸倉 策磨, 河楚義夫)	水銀式塩化アルカリ電解法の塩水マッドとセメントの混合造粒物又は混合成形物の表面を水硬性無機質粉体でコーティングすることよりなる塩水マッド廃棄用コンクリート固型化物。
96	47-82183 (47. 8.18)	53-9276 (53. 4. 4)	929945 (53.10.17)	ポリエステル製造法 (小坂勇次郎, 吉田 敏郎, 秋元 明, 高本 邦夫)	<p>触媒として、一般式 R_1-SmO_n-L (ここでSは硫黄、Oは酸素原子を示し、mは1または2の整数で、nは2から4までの整数であって、</p> <p>(1) m=1 であって n=4 の場合 (2) m=1 であって n=3 の場合 (3) m=1 であって n=2 の場合 (4) m=2 であって n=3 の場合 (5) m=2 であって n=4 の場合</p> <p>を、満足するような組合せからなり、R_1 はアルカリ金属もしくは炭素数1~20を有する炭化水素残基または不飽和炭化水素残基を含み、かつLはアルカリ金属である。)で表わされる化合物群の一つ、またはこれらの化合物の一つと共に助触媒として水、アルコールおよびカルボン酸から選ばれる活性水素含有化合物を用いることを特徴とするアルキレンオキッドとジカルボン酸無水物とからポリエステルを製造する方法。</p>
97	48-562 (47.12.29)	52-32400 (52. 8.20)	929963 (53.10.17)	テトラヒドロフランの重合法 (小坂勇次郎, 植村 勝, 斉藤 光高, 杉原 啓二)	テトラヒドロフランを発煙硫酸とリン酸あるいはポリリン酸との存在下に重合させることを特徴とするテトラヒドロフランの重合方法。
98	48-59750 (48. 5.30)	52-32679 (52. 8.23)	929974 (53.10.17)	テトラヒドロフランの重合法 (小坂勇次郎, 植村 勝, 斉藤 光高, 杉原 啓二)	テトラヒドロフランを発煙硫酸、ジメチルホルムアミドの混合物、あるいは、発煙硫酸、ジメチルホルムアミド、フッ化硫酸混合物の存在下に重合させることを特徴とするテトラヒドロフランの重合法。
99	48-73654 (48. 7. 2)	52-32680 (52. 8.23)	929983 (53.10.17)	テトラヒドロフランの重合方法 (小坂勇次郎, 植村 勝, 斉藤 光高, 杉原 啓二)	発煙硫酸を主成分とする触媒系に無水酢酸を共存せしめ、テトラヒドロフランを重合することによって低分子量ポリテトラメチレンエーテルグリコールを得ることを特徴とするテトラヒドロフランの重合方法。
100	51-29338 (51. 3.19)	53-8592 (53. 3.30)	930028 (53.10.17)	エチレン-酢酸ビニル共重合体のカルボキシル化方法 (井村 信一, 斉藤 光高, 森下 延男)	<p>エチレン-酢酸ビニル共重合体の存在下 $\alpha\cdot\beta$-不飽和カルボン酸および/またはその無水物と一般式</p> $CH_2=C \begin{matrix} \diagup X \\ \diagdown Y \end{matrix}$ <p>(ただし、X, Yは異種または同種で水素、塩</p>

No	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
					素, アルキル基, アセトキシ基, カルボン酸エステル基, シアノ基からなる群から選ばれる)を有する少なくとも一種のビニリデンモノマーを重合開始剤を用いて共重合する際に反応媒体として酢酸エステルもしくは酢酸エステルと低級アルコールの混合物を用いて不均一系で反応を行うことを特徴とする エチレン-酢酸ビニル共重合体のカルボキシル化方法。
101	49-102950 (49. 9. 9)	53-11276 (53. 4.20)	931441 (53.11. 7)	活性炭の再生方法 (大槻 進, 宮之原 勲, 水井 規雅)	含塩素合成ゴム製造工場から出る廃水を吸着処理したのちの吸着済活性炭をメタノールおよびアセトンから選ばれた少なくとも1種の溶剤と, ベンゼン, シクロヘキサンおよびジクロロエタンのうちから選ばれた少なくとも1種の溶剤との混合溶剤と接触させることを特徴とする活性炭の再生方法。
102	50-74387 (50. 6.20)	53-11555 (53. 4.22)	931449 (53.11. 7)	接着性のすぐれたエチレン系共重合体の製造方法 (井村 信一, 齊藤 光高, 森下 延男)	エチレン-酢酸ビニル共重合体およびクロロブレン液状低重合体の存在下, α - β -不飽和カルボン酸および/あるいはその無水物と一般式 $\text{CH}_2=\text{C} \begin{array}{l} \text{X} \\ \text{Y} \end{array}$ (ただし, X, Yは異種または同種で, 水素, 塩素, アルキル基, アセトキシ基, カルボン酸エステル基からなる群から選ばれる。)を有する少なくとも一種のビニリデン単量体を共重合することからなる該エチレン系共重合体の製造方法。
103	48-111028 (48.10. 4)	53-11987 (53. 4.26)	932879 (53.11.14)	多孔質ポリ塩化ビニル成型物の製造法 (大槻 進, 宮之原 勲, 水井 規雅)	ホリ塩化ビニルを主体とする樹脂粒子に硫黄化合物およびアミン類またはこれらにさらに溶剤を混合し含浸させることにより, 完全に溶解させることなく個々の粒子の形状をとどめたまま表面を軟化させ, 次いで該含浸粒子を20°C以上の加熱下に維持することにより成型することを特徴とする連続空隙性多孔質ポリ塩化ビニル成型物の製造法。
104	50-5298 (50. 1.11)	53-13475 (53. 5.10)	932900 (53.11.14)	塩化ビニル重合体又は共重合体の製造法 (永野 峰雄, 齊藤 道生, 粟沢 茂, 田中 浩二)	塩化ビニル単量体又は塩化ビニル単量体と, これと共重合可能な単量体を重合して塩化ビニル重合体又は塩化ビニル系共重合体を製造するにさいし, 重合圧力を重合温度での塩化ビニル単量体の飽和蒸気圧以下としかつ塩化ビニル重合体又は塩化ビニル系共重合体を成形加工するさいに必要な添加物を添加して重合することを特徴とする塩化ビニル重合体又は共重合体の製造法。
105	50-63518 (50. 5.29)	53-11988 (53. 4.26)	932905 (53.11.14)	多孔性合成樹脂膜 (小山 憲治, 大野省太郎)	連続相と円柱状相のマイクロ構造からなるブロック共重合体膜の表裏につながり存在する円柱状マイクロ相が欠落した直径70~3000オングストロームの微孔貫通孔を有する厚さ20 μ 以下の多孔性合成樹脂薄膜。

No	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
106	50-14824 (50. 2. 6)	53-4856 (53. 2. 21)	934056 (53.11.30)	ホットメルト組成物の軟化点を向上せしめる方法	酢酸ビニル含量が10~45重量%でメルトインデックスが1~1000 g/10 min のエチレン・酢酸ビニル共重合体に粘着化樹脂, ワックス, アスファルトの中少くとも1種を配合し, かつ顔料, 充填剤, ゴム, 可塑剤, 非粘着化樹脂のいずれか1種または2種以上を添加し, あるいは添加しないホットメルト組成物に対し, 酸価が1~20で, エチレン含量2~18 wt% 低分子量ポリプロピレン-エチレン共重合体酸化物を前記のエチレン・酢酸ビニル共重合体の1/100~60/10倍量(重量)の範囲で混合することを特徴とするホットメルト組成物の軟化点を向上せしめる方法。
107	46-36273 (46. 5. 28)	53-12550 (53. 5. 1)	932851 (53.11.14)	クロロプレンとメタクリロニトリルの共重合体の製法	バナジクロライドとアルキルアルミニウム化合物のモル比が0.01から1.0の範囲となるように調製された重合触媒を使用してクロロプレンとメタクリロニトリルとの共重合体の製法。
108	50-60952 (50. 5. 23)	53-15495 (53. 5. 25)	954297 (53.11.30)	メタクリル酸の製造法	メタクロレインを分子状酸素又は分子状酸素を含有する混合ガスにより気相接触酸化してメタクリル酸を製造する際に, 一般式 $MoaVbPcCedOe$ (ここで添字 a, b, c, d, e はそれぞれモリブデン, バナジウム, リン, セリウムおよび酸素の原子比を表わし, $a=12$ のとき, $b=0.01\sim 2$, $c=0.1\sim 3$, $d=0.01\sim 2$, e は各元素の原子価により定まる数値で通常36~52) で表わされる組成を有する多元素複合酸化物に, 二塩基性カルボン酸類, オキシカルボン酸類, マンニトおよびピロガロールの中の少くとも一種を添加して調製した多元系の複合酸化物触媒を使用することを特徴とするメタクリル酸の製造法。
109	46-36272 (46. 5. 28)	53-14533 (53. 5. 18)	935197 (53.11.30)	ジアセトキシブテンを製造する方法	プタジエン, 酢酸および酸素を含む混合ガスをパラジウムを主成分として含有する担持触媒により気相流通反応させてジアセトキシブテンを製造するに際し, 担体として200°C以上に加熱処理した活性炭を用いることを特徴とするジアセトキシブテンの製造方法。
110	47-68227 (47. 7. 10)	53-14550 (53. 5. 18)	935211 (53.11.30)	2-ニトロ-5, 9-シクロドデカジエノン製造する方法	1, 5, 9-シクロドデカトリエンと二酸化窒素と酸素とを(1)の溶媒のうちの少なくとも一種と(2)の溶媒のうちの少なくとも一種との混合溶媒中で反応させることにより2-ニトロ-5, 9-シクロドデカジエノンを製造する方法。 (1) 芳香族炭化水素, 脂肪族炭化水素, 脂環式炭化水素, ハロゲン置換炭化水素, エーテル類 (2) ジメチルスルホキシド, ジメチルホルムアミド, ジエチルホルムアミド, ジメチルアセトアミド, N-メチルピロリドン, テトラメチルウレア, N-メチルカプロラクタム

No.	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
111	50-129310 (50.10.29)	53-13996 (53. 5.13)	935266 (53.11.30)	クロマトグラフィー用担体の製造方法 (井村 信一, 深野 一幸)	(1)比表面積 5~1500 m ² /g, 大きさ 1μ~1 mm を有するシリカゲル, アルミナ, ゼオライト, 多孔性ガラス, クレイ, 珪藻土などの多孔性無機物に, 重合性単量体および/または架橋剤を含浸し放射線または開始剤重合すること(2)その後溶剤可溶性な重合体部分を抽出することおよび(3)該工程(1)または(2)の前または後で R _n SiX _{4-n} (ただし, R は1価の炭化水素基であり, X はハロゲンまたは OR' (R' は炭化水素基) で表わされる基である。ただし, n は 1~3 の整数である。) または R ₃ -Si-A-Si-R ₃ (ただし, R は1価の炭化水素基であり, A は O または NH または S を表わす) で表わされるシリル化剤, または R''SiX ₃ (ただし, X は上に述べたと同じである。R'' は, アミノアルキル基またはエポキシを含有する基, またはメルカプトアルキル基, またはハロアルキル基, または ω 位に C=C を含有する基である。) で表わされるシランカップリング剤と反応させることからのクロマトグラフィー用担体の製造方法。
112	50-152860 (50.12.23)	53-13997 (53. 5.13)	935268 (53.11.30)	クロマトグラフィー用担体の製造方法 (清田 徹, 清水 明彦, 加藤 芳男, 橋本 勉)	下記一般式を有する $\begin{array}{c} \text{R} \\ \\ -\text{CH}_2-\text{CH}- \\ \\ \text{Z} \\ \\ \text{C} \\ \\ \text{O} \end{array} \begin{array}{l} \text{O} \\ \\ \text{CH}_2-\text{CH}-\text{CH}_2 \\ \diagdown \quad / \\ \text{O} \end{array}$ <p>(R は-H または -CH₃, n は 0 または 1 であって, かつ, 1 の場合 Z は -CH₂- または  である。m は 0 または 1 である。) 構造を含む多孔性ゲルに核酸塩基および/またはその関連化合物を、溶媒中で炭酸塩の存在下で反応させることを特徴とするクロマトグラフィー用担体の製造方法。</p>
113	48-73446 (48. 6.29)	53-13216 (53. 5. 9)	936052 (53.12.12)	アスファルト組成物 (中沢 秀昭, 福士 直文, 會志崎順一, 飯国 鉄男)	一般式 $\begin{array}{c} \text{R}-\text{N}(\text{CH}_2)_3\text{N} \\ \quad \diagup \quad \diagdown \\ (\text{C}_n\text{H}_{2n}\text{O})_2\text{H} \quad (\text{C}_n\text{H}_{2n}\text{O})_x\text{H} \\ \quad \quad \quad \quad \quad \quad \quad (\text{C}_n\text{H}_{2n}\text{O})_y\text{H} \end{array}$ <p>(但し, R は炭素数 12~20 の飽和又は不飽和脂肪族基, x, y, z は 0 ≤ x + y + z ≤ 3 を満足する 0 又は正の数, n = 2 または 3) で示される化合物の有機又は無機酸塩, アルミナゾルおよび炭素数 4~10 の n-アルキルメルカプタンもしくは炭素数 4~8 のジアルキルキサントゲンジサルファイドの存在下でクロロブレンを重合または共重合して製造されたカチオン性ポリクロロブレンラテックスと, アスファ</p>

No	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要 旨
					ルトもしくはアスファルト乳剤からなるか、またはこれらと骨材および/またはファイラーからなるポリクロロブレンアスファルト組成物。
114	47-60247 (47. 6.16)	53-13608 (53. 5.11)	936044 (53.12.12)	ω-ニトロドデカン酸 ナトリウムを製造する 方法	シクロドデセンのニトロオキシデーション反応液から水溶性成分、着色性副生成物を除去したのち、該精製液から2-ニトロシクロドデカノンの水酸化ナトリウム水溶液をもちいて60°Cないし110°Cの温度および2-ニトロシクロドデカノンと水酸化ナトリウムのモル比1:1ないし1:1.5なる条件下で抽出すると同時に2-ニトロシクロドデカンをω-ニトロドデカン酸ナトリウムに変化させることを特徴とするシクロドデセンからω-ニトロドデカン酸ナトリウムを製造する方法。
115	48-33890 (48. 3.24)	53-15057 (53. 5.22)	936049 (53.12.12)	α-ニトロケトンの精製 法	シクロドデカトリエン、シクロドデカジエン、シクロドデセンまたはこれらシクロアルケン中のいずれか2種以上の混合物に溶媒中で過酸化窒素と酸素を反応させてえられる、一般式 <div style="text-align: center;"> </div> <p>(ただし、R₁、R₂ はそれぞれ独立して -CH₂-CH₂- または -CH=CH- を示す。)</p> <p>で表わされる単一の α-ニトロケトンまたはこれら α-ニトロケトンの2種以上の混合物を非水溶性有機溶媒溶液または懸濁液とし、これに上記 α-ニトロケトン類に対し10モル%以下のアルカリ水溶液を接触させて上記 α-ニトロケトン中に含まれる着色原印物質を抽出除去することを特徴とする α-ニトロケトンの精製法。</p>
116	47-121642 (47.12. 6)	53-15472 (53. 5.25)	937440 (53.12.26)	シクロドデセン製造用 触媒	パラジウムとコバルトよりなる、またはアルミナ、活性炭、アスベスト、軽石もしくはアルカリ土類金属の炭酸塩にパラジウムとコバルトを担持させてなる、シクロドデカトリエン-1,5,9の水素添加によるシクロドデセン製造用の触媒。
117	48-30866 (48. 3.19)	53-18013 (53. 6.13)	937448 (53.12.26)	ω-アミノドデカン酸 エステルの製造法	一般式 $O_2N-(CH_2)_3-R_1-(CH_2)_2-R_2-(CH_2)_2-COOR_3$ <p>(ただし、R₁ および R₂ はいずれも -CH₂-CH₂- または -CH=CH- を、R₃ は炭素数1ないし4の飽和アルキル残基を示す。)で表わされる ω-ニトロカルボン酸エステルを炭化水素溶媒中でニッケル系触媒、白金系触媒、パラジウム系触媒のうち少くとも1種の存在下で水素と反応させることを特徴とする一般式 $H_2N-(CH_2)_{11}COOR_3$ <p>(ただし R₃ は上記と同じものを示す。)で表わされる ω-アミノドデカン酸エステルの製造法。</p> </p>

No	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	発明の名称	要旨
118	50-111697 (50. 9.17)	53-19568 (53. 6.21)	937494 (53.12.26)	デカプロモビフェニル エーテルの製造法 (伊藤 幹雄, 桂川 寛二, 木原 啓一)	ビフェニルエーテルと臭素を二臭化エタン溶媒 中で触媒の存在下に反応せしめ, デカプロモビ フェニルエーテルを製造したのち, これにさら にビフェニルエーテルを加えて残存する過剰の 臭素と反応せしめ, 1分子中に3~7個の臭素 を含むポリプロモビフェニルエーテルを生成せ しめ, ついでデカプロモビフェニルエーテルを 分離したのち該溶媒を留去して得られる該粗ポ リプロモビフェニルエーテルを脂肪族炭化水素 系溶媒で抽出精製し, これを臭素と反応せしめ ることを特徴とするデカプロモビフェニルエー テルの製造法。
119	48-33889 (48. 3.24)	53-20012 (53. 6.24)	937590 (53.12.26)	メタクリロニトリルの 製造方法 (野中 悠次, 有馬 隆司, 木原 啓一)	(a)アンチモンと, (b)モリブデンと, (c)マンガン, (d)リンと, (e)リチウム, ベリリウム, マグネシ ウム, カルシウム, 亜鉛, ストロントリウムおよ びバリウムよりなる群から選ばれた少なくとも 1種の元素および(f)酸素とからなる組成物を有 効成分として含有する触媒を使用して, イソプ チレンをアンモニアと分子状酸素とで酸化する ことを特徴とするメタクリロニトリルの製造方 法 (ここでアンチモン, モリブデンとマンガン の比率 (グラム原子百分率) が第1図に示すご とくそれらの金属を頂点とする三角図表におい て, 点A [Sb=90, Mo=5, Mn=5], 点B [Sb=36, Mo=57, Mn=7], 点C [Sb=3, Mo= 57, Mn=40], および点D [Sb=78, Mo=5, Mn=17] の4点を結ぶ不等辺四角形の範囲内 にあり, かつリンがアンチモン, モリブデンと マンガンの合計量に対して原子比で0.001~ 0.12の範囲内にあり, さらに(e)群から選ばれた 元素がアンチモン, モリブデンとマンガンの合 計量に対して原子比で0.001~0.15の範囲内に ある。酸素の含有割合は上記各金属が結合して 生成する酸化物に対応して決る)。

＜実用新案＞1件

No	出願番号 (出願月日)	公告番号 (公告月日)	登録番号 (登録月日)	考案の名称	要旨
1	48-118189 (48.10.11)	53-9536 (53. 3.13)	1257842 (53.11.30)	充填用袋 (佐倉 正一, 山本 鉄也)	開口部2を残して全周縁を密閉した袋本体1お よび, 重なった2個の短冊状フィルム4, 4'の 内面に, フィルム端から長さ方向にはほぼ平行に 走る2条の溶着部5, 5'によって形成された直 線状流路6と絞り部7およびフィルムの重なり 部分8を有するチューブ状弁とからなり, 該チ ューブ状弁の流入口が袋本体の開口部と一体と なり, 他の部分が袋本体内にあることを特徴と する合成樹脂製の充填用袋。